

コードキャンプ AI研修統括・志賀琢也による新刊『AI エージェント導入を任されたら読む本』9月24日発行

AIエージェントの「仕組み」を体系的に理解し、自社に必要な構成・導入を判断するための一冊。コードキャンプ代表・川西里佳、Future・上山俊佑氏が監修

コードキャンプ株式会社（本社：東京都品川区、以下 コードキャンプ）は、コードキャンプ AI研修統括の志賀琢也が執筆した書籍『AIエージェント導入を任されたら読む本』が、2026年9月24日に日経BPより発行されることをお知らせします。

『AIエージェント導入を任されたら読む本』9月24日発行

<https://codecamp.jp/corporate/press/detail/479>

AIエージェントを **理解**して**実践**へ。

 **理解**

 **導入**

 **構築**



著者 志賀 琢也
監修 川西 里佳・上山 俊佑

**2026
9.24
発行**

1冊で体系的に理解。豊富な実践ナレッジ。

日経BP『AIエージェント導入を任されたら読む本』（著者：志賀琢也 / 所属：コードキャンプ株式会社）

本書は、AIエージェントの特定製品やツールの使い方を解説するものではなく、AIエージェントを構成するRAG、Function Calling、MCP、LangGraph、マルチエージェント、評価、ガイドレールなどの仕組みを体系的に整理してシステムの全体像を理解し、「自社の業務に何が必要なのか」「提案された構成は妥当なのか」「どこまでAIに任せるべきなのか」を判

断するための考え方を整理し、AIエージェントの導入を担当するために必要なナレッジをまとめた一冊です。

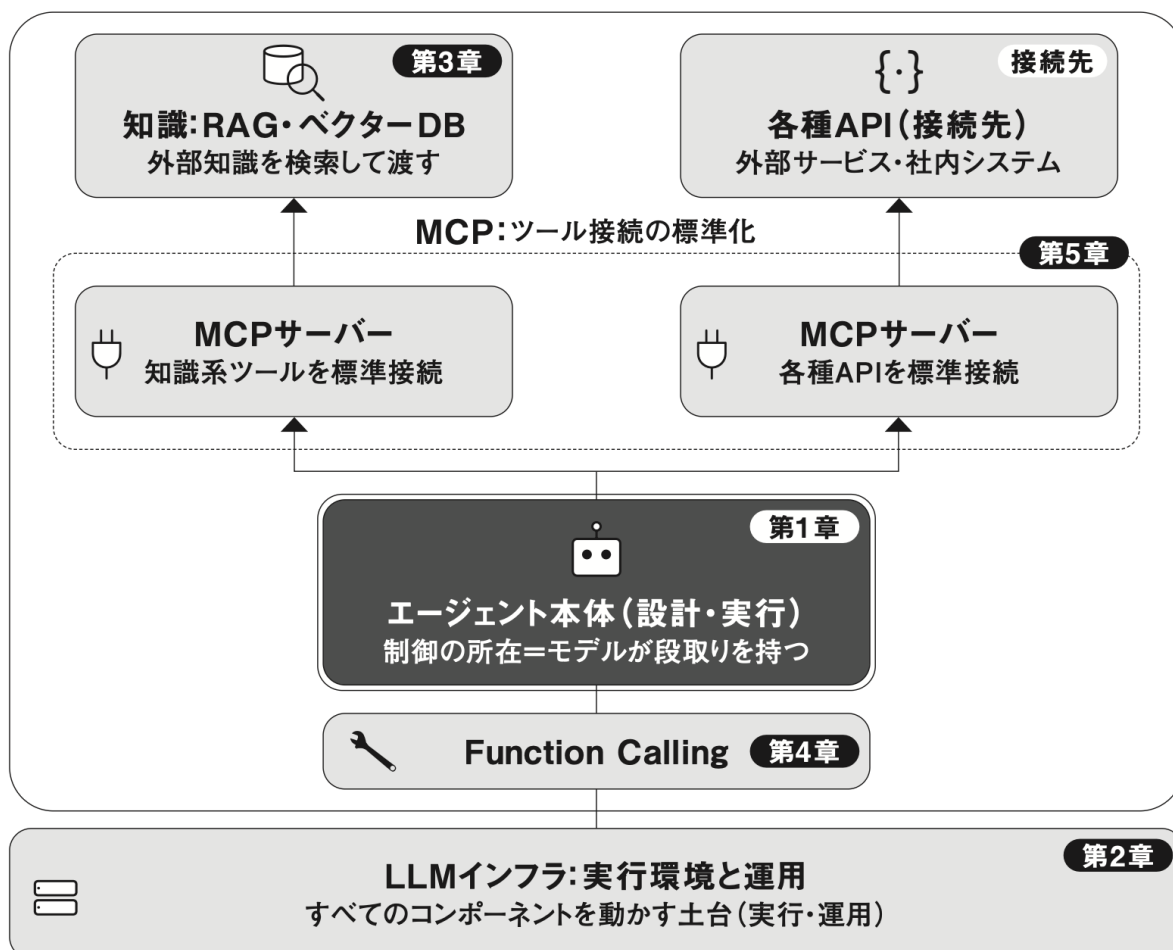


図1-0-1 第I部の地図: AIエージェントを動かす全体像

書籍『AIエージェント導入を任せたら読む本』第1章 「LLM」「ワークフロー」「エージェント」の境界線より

著者は、コードキャンプで生成AI・AIエージェント領域の教育・研修開発を統括する志賀琢也。コードキャンプにおける長年の講師経験とAIに関する知識をもとに、AIエージェントを活用するうえで欠かせない技術やシステム構造を、初学者にも理解できる形で体系的に整理しました。

監修には、フューチャーのAI戦略推進室で企業へのAI導入を支援する上山が参画。実際の導入現場で培った知見をもとに、企業がAIを導入・運用する際に押さえるべき論点や注意点を、実務視点から盛り込んでいます。さらに、コードキャンプ代表の川西が、AIの専門家ではないDX・IT人材にとって「何を理解しておけば、自社での導入や判断に活かせるのか」という観点から、内容の分かりやすさや実務での知識の応用のしやすさを監修しました。

それぞれの専門性を掛け合わせ、AIエージェントの専門家を目指す人だけでなく、これからAIエージェントの導入を検討・推進する企業のDX・IT人材が、全体像をつかみ、自ら判断するための知識を獲得できる実践的な入門書に仕上がっています。

発刊の背景

ChatGPTをはじめとする生成AIの活用が企業に広がる中、次のテーマとして注目されているのが「AIエージェントを業務にどう導入するか」です。

一方、AIエージェントについて情報を集めると、RAG、Function Calling、MCP、LangGraph、マルチエージェント、評価、ガードレールなど、多くの技術や概念に直面します。

個々の技術について理解するだけでも一苦勞であり、さらに

- 「それぞれがどのようにつながっているのか」
- 「自社に必要なものは何か」
- 「どのような構成が自社の業務に適しているのか」

までを判断することは容易ではありません。

著者の志賀自身も、AIエージェントの情報を追うほど全体像が見えにくくなり、必要なのはすべての技術を覚えることではなく、新しい技術を位置づけられる“知識体系”であるという問題意識を持ったことが、本書の出発点の一つとなっています。

このような知識体系は、AIエージェントにまつわる様々なフェーズで必要となります。AI導入の担当者として判断を下す際はもちろん、エンジニアとしてAIエージェント構築技術を学ぶ前段としても、あるいは経営者として自社のAI戦略を策定する際のインプットとしても有用です。

本書は、変化の速い製品や機能を網羅するカタログではありません。

AIに関する情報の海に飲まれそうな感覚をお持ちになっている方の助けとするため、変化しにくい「仕組み」と「判断の軸」を先に理解し、その上に新しい技術を位置づけるための地図を提供することを目指しています。

本書が目指すこと

本書の目的は、「AIエージェントの技術的な知識を得ること」だけではありません。

仕組みを理解することで、

- 「何ができるのか」
- 「どこに限界やリスクがあるのか」
- 「どのような業務に適用すべきなのか」

を自ら判断できる状態を目指します。

また、読者の目的に応じて3つの読み方を用意しています。

想定読者	本書で目指すこと
意思決定を担う経営層・マネジメント	投資判断・体制づくり・ベンダー選定に必要な構造を理解する
AIエージェント導入の企画・要件定義を担う方	技術者やベンダーと対話し、自社の業務要件を整理できるようになる
AIエージェントを実装するエンジニア	最小実装や典型構成を通じて、実装の基礎となる構造を理解する

特にAIエージェント導入の企画や要件定義を担い、「どの業務についてどの部分をAIに委ねるのか」「人の承認をどこに置くのか」「社内外のナレッジをどのようにAIに読み込ませるか」「社内システムとどのように連携するか」といった業務要件を整理する立場の方です。

技術選定より前に「業務要件」を考える

本書ではAIエージェントの導入にあたり、最初から特定の技術やサービスを選択するのではなく、先に業務要件を整理することを重視しています。

たとえば、「利用者と業務目的」「制御主体」「人の介在」「情報要件」「外部システム操作と権限」「利用形態と会話の継続」「出力・成功条件・評価」という7つの軸から、自社の業務に必要な構成を考えていきます。

	要件整理の軸	確認すること
1	利用者と業務目的	誰の、どの業務を助けるのか。開始時に必要な入力と求められる出力。また、対象外とする業務は何か
2	制御主体	処理手順をグラフ、モデル、Supervisorの誰が決めるか。AI、利用者、運用者の責任分界はどこか
3	人の介在	処理中に人の介在は必要か、実行結果の確認が必要か、承認まで処理を止めるか。誰が、何を、どの時点でチェックするか
4	情報要件	社内情報、社外情報、または両方を使うか。テキスト中心か、数値・構造化データ中心か。蓄積済み情報で足りるか、実行時の最新情報が必要か、各情報の参照・操作権限をどのように設定するか
5	外部システム操作と権限	参照だけか、登録・更新・通知などの外部操作があるか。ある場合は、誰の権限で実行し、どの操作の前に承認し、失敗時にどう戻すか
6	利用形態と会話の継続	チャットボット、専用アプリ、他アプリのロジック、自動実行のどこから動かすか。会話内容や利用者の情報を次回以降も覚える必要があるか
7	出力・成功条件・評価	何をどの形式で返し、根拠や処理状態をどこまで示すか。品質、漏洩、回復、実行時間、コストをどう測るか

表10-2-1 第11章～第13章の実例3章で共通して使う要件整理の7軸

書籍『AIエージェント導入を任されたら読む本』第3章 典型構成を解剖する一提案を受けたときに中身を想像する [10-2]要件を整理する7つの軸より

AIに自律的な判断を任せるべき業務なのか、あらかじめ決められた手順で処理するワークフローが適しているのか。

「AIエージェントを使うこと」を目的にするのではなく、業務に応じた構成を判断することを重視した内容となっています。

著者 志賀琢也 コメント

AIエージェントの領域では、新しいモデルやサービス、フレームワークが次々に登場します。すべてを追いつけるのではなく、新しい技術が出てきたときに「これはどこに位置づけるのか」「自社に必要なのか」を判断できる地図を持つことが重要だと考えています。

本書を読んで終わりではなく、自社の業務を整理し、導入計画を考える、提案を評価する、あるいは実際に構築するといった次の行動につなげていただければ嬉しいです。

書籍概要

書籍名	AIエージェント導入を任されたら読む本
著者	志賀 琢也 コードキャンプ株式会社 AI研修統括
監修	川西 里佳 コードキャンプ株式会社 代表取締役 上山 俊佑 フューチャー株式会社 AI戦略推進室マネジャー
発行日	2026年9月24日
出版社	日経BP
定価	3300円（10%税込）
ISBN	978-4-296-22034-2
予約・詳細	Amazon : https://www.amazon.co.jp/dp/4296220349

発売に向けて、著者・監修者によるコンテンツも公開

コードキャンプでは書籍発売に向け、著者・監修者それぞれの視点から、本書に込めた考えや企業のAIエージェント導入について紹介するコンテンツを順次公開します。

『AIエージェント導入を任されたら読む本』 9月24日発行
<https://codecamp.jp/corporate/press/detail/479>

著者・志賀琢也

公開予定日：9/15（火） 「AIエージェント導入を任されたら、最初に何を考えるべきか」

コードキャンプの法人向けAI研修について

コードキャンプでは生成AIの業務活用から、AIエージェントの理解・導入、AIエージェントを構築できるエンジニアの育成まで、企業の目的や対象者に応じた法人向けAI研修を提供・開発しています。

書籍で体系的な理解を得ることに加え、著者である志賀の監修したAI研修ラインナップでは演習や実践を通じて、知識を実際の業務やプロジェクトで使える状態へつなげることを目指します。

法人向け研修の詳細

<https://codecamp.jp/business>

法人研修に関するお問い合わせ

<https://codecamp.jp/business/contact>

コードキャンプ株式会社について



コードキャンプ株式会社は「人と社会の成長を加速させる」をミッションに、個人向けプログラミングスクールから法人向けIT・生成AI研修まで幅広いデジタル人材育成サービスを提供しています。受講者一人ひとりの目的や事業フェーズに合わせたカリキュラム設計を強みとし、自治体・企業・教育機関など多様なパートナーと連携しながら、技術を「挑戦する人の武器」にする学びの場を届けています。

会社名	コードキャンプ株式会社
所在地	東京都品川区大崎1丁目2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー 3F
設立	2012年12月21日

事業内容	プログラミング・IT・生成AI教育事業
URL	https://codecamp.jp/

本件に関するお問い合わせ

コードキャンプ株式会社 広報担当

Email : info@codecamp.jp